

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年9月10日
タイトル	ぜんぶ手で植えたよ！2019
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年6月12日（水）福山市立駅家西小学校5年生51名が、駅家西学区内の町内連合会会長や町内会長の協力で田植えを体験しました。

駅家西小学校の学区全ての町内会から町内会長さんをはじめ多くの地域の方が学区全体の取組としてこの農業体験を支えておられます。

昼休憩になると校庭で遊ぶ他の学年とは別に5年生は田植えの準備のため、着替えて校庭に整列しました。担任の先生から「大勢の地域の方が田植えについて教えてくださいますから、しっかり聞く態度で田植えをしましょう。」と言われると元気一杯「はい！」と返事をし田んぼへ出発しました。

田んぼではすでに校長先生と地域の方が田植えをしながら待っておられました。校長先生が「全ての町内会から町内会長さんをはじめ多くの地域の方が協力して学区全体の取組としてこの農業体験を支えて下さっていることに感謝しましょう。」と話され、みんなで大きな声で「お願いします。」と挨拶をしました。

連合町内会長から「今年はおち米を植えます。担任の先生2人とも田植えが初めてだと聞きました。先生に負けないようにみんなも土の感触を楽しんで田植えをしてください。」と挨拶がありました。

子ども達は、すぐに裸足になり田んぼへ入ります。殆どの子が田植えは初めての子ばかり、初めての土の感触に戸惑う様子もありましたが、大きな声もあげず黙々と田んぼの中央まで進みました。

田んぼの端から端まで横一列に並んで「はえ縄」の赤い印に植え後ろに下がりながら一列ずつ植えます。この「はえ縄」は通常より間隔が狭く子どもが全員で横一列で植えられるように間隔を短くするため赤い印を全部入れ替えたそうです。間隔を短くし列の幅を少し広くして全体のバランスを考えられていました。



三列ほど植えると慣れてきて植えるスピードも速く、植えた苗もピンとして地域の方が植え直すことがなくなりました。

電車の線路に面した部分を残して田植えを終了するとほ場からあがり、農業用水路で足を洗いました。

校長先生が「田植えの感想がある人。」と呼びかけると、元気いっぱい「きれいに植えたと思います。」と答えると地域の方が大笑いされました。子ども達はきれいに植えたと思っているようですが、地域の方から見ると捻じれていたり、苗の束が多かったり少なかったり、中には倒れかけているものもあるため思わず笑ってしまわれたようです。

校長先生が「田植えの楽しい事だけさせていただいて、準備や稲刈りまで大切に稲を育てることは地域の皆さんがしてくださいます。みなさんに感謝して稲の成長を見守りましょう。」と話されました。最後に、子ども達から大きな声で「ありがとうございました。」と挨拶をし、連合町内会長が「この田んぼは学校から近く通学路に隣接しています。これから4か月登下校の時に稲の成長を見守ってください。」と挨拶されました。

最後に水土里ネット福山から「みんなが足を洗った水路ですが、転落すると危険です。」と伝え農業用水路等への転落防止の啓発をし農業用水路の防災についてのチラシと福山市の備蓄用飲料水を学校から配布してもらいました。

地域の方から「苗は2、3本苗を多くしても米の収穫量は増えんよ。段々苗が増えんように気をつけて。」と言われましたが油断すると苗の量が増えていき、地域の方が「ようかんじょうして植えにゃあいけんで。」と言われ、子ども達がポカンとしていると「子どもらに通じんど、何て言やあええんじゃ！」と大笑い。「もうちょっとこっちじゃ。たわんで。」とか目印の竹を「さばって！」と地域の方が普段どおり備後弁で話され、子ども達と田植えを楽しんでおられる事が伝わって楽しい農業体験となりました。

備後弁    かんじょうして→数を数えて    たわん→到達しない    さばって→引き寄せて

駅家西小学校5年生は、稲刈りもすべて手作業です。この貴重な体験を通じて、農業や環境など様々な分野に関心を広げてもらいたいです。水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の様子取材いたします。